

春シラスの漁況経過と秋シラスの見通し

1. 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラスの漁模様は、2月の解禁以降、4月までは低調に推移し、5月上旬頃から漁が本格化し、1日10~20トン程度の漁模様で推移していますが、5月中旬、6月下旬には1日で60~70トン獲れる日もありました。以降も漁獲は続き、7月下旬現在は漁獲量の増加がみられます(図1)。春シラスの漁獲量は7/24時点の速報値で1,034トンとなり、前年(884トン)を上回り、過去5年平均(1,487トン)を下回っています。

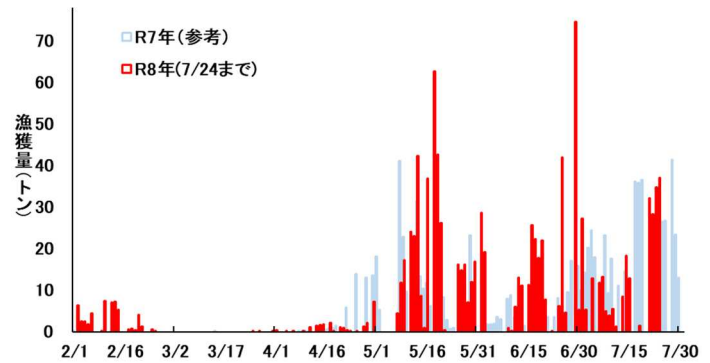
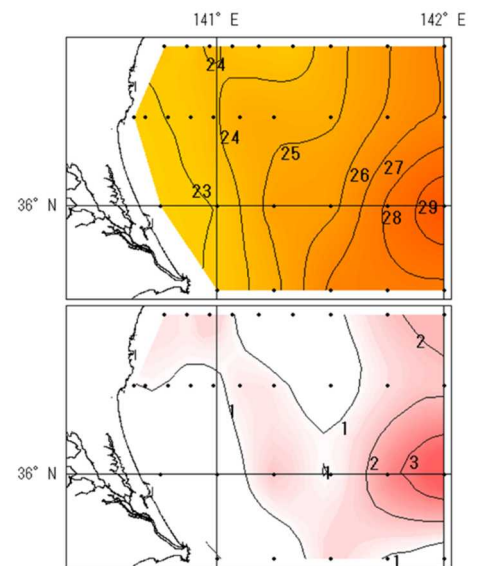


図1 R7・R8年シラス水揚量の日別推移

2. 8月の海況予測

現在、茨城沿岸は北からの冷水の差し込みを受け、深層では水温が平年よりも低い状況にあり、8月以降、しばらく冷水の影響が残る可能性があります。一方、シラス漁場となる沿岸域の海面水温は気温上昇の影響を受け、「平年並~やや高め」で推移する見込みです(図2)。

図2 8月の海面水温予測図
(上段:水温、下段:水温平年差)

3. カタクチイワシ卵の分布

県調査船「せんかい」の調査結果によると、カタクチイワシ成魚の成熟度は下がってきているものの、卵密度は5月、6月に続き7月現在も直近年を上回る水準となっており、新たなシラス資源の供給が続いています(図3)。

現在確認されている卵は9月上旬ころには漁獲対象として加入すると考えられます。

4. 秋シラス(8~12月)の見通し

春シラス漁は直近5年平均を下回るペースで推移しているものの、7月下旬現在、漁獲量の増加がみられます。また、カタクチイワシ卵が多く供給されている状況にあるほか、今後水温が上昇することでシラスにとって好適な環境となる見込みです。

以上のことから、今年の秋シラスの漁は前年を上回る水準でスタートすると考えられますが、直近5年では秋シラス漁獲量は8月・9月をピークに10月以降は減少する傾向にあるため(図4)、漁期を通しては中漁水準(1,380~2,050トン)となると予測します。

(参考)直近5年の秋シラス漁獲量

年	R3	R4	R5	R6	R7
漁獲量(t)	1,918	1,530	1,574	978	1,349

(回遊性資源部 長谷川 拓哉)

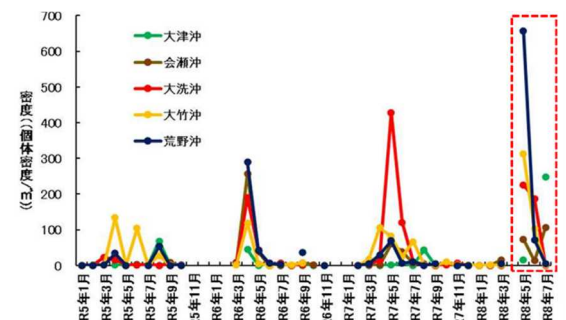


図3 「せんかい」卵調査結果

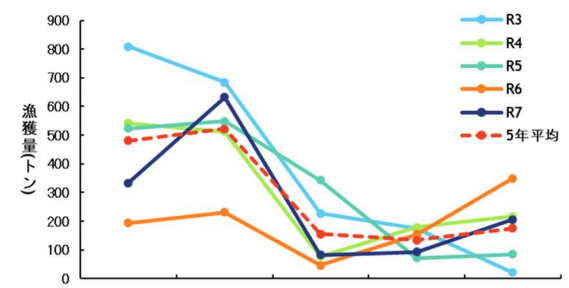


図4 直近5年の秋シラスの月別漁獲量推移

次号予告: 令和8年8月7日の「水産の窓」は「長期漁海況予報会議の結果」を予定しています。